
はれんちマンション（承一）

阿厨季夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はれんちマンション（承一）

【Nコード】

N6450C

【作者名】

阿厨季夜

【あらすじ】

「あたしの人生、このままでいいの!？」と、日常生活をほつぱり出して、突然旅に出た母。その息子のハレルヤ（通称ハレ）は母の仕事 マンションの管理人を任されるはめになってしまった。静かになったこと以外、生活において特に何も変化がないと思われたが ！？企画・グループ小説の第2走者目

(前書き)

叶愛夢さん(起) 阿厨季夜(承一) 御谷朋さん(承二) とい
うふうに続きます。

母さんが消えてから現在に至るまで、風呂・洗濯・夕飯等々、やはり困ることは何もない。

唯一の違和感とすれば、何もかもこれからは一人分のことしかしなくていいということだけど、時間が経つにつれて、きっとそれも薄れていくだろう。

妙に静かな空間で夕飯を口に放り込みながら、テレビのリモコンに手を伸ばした、その時だった。

突然、うちのチャイムが鳴り響いたのだ。少し間をおいてから、僕は茶わんの上に箸を荒っぽく置き揃える。

静まっていた水面が、一瞬にして泡立ち始めた。

…なんともまあ、早いお帰りだな。

理由はなんだろう。金欠？ 忘れ物？ それとも、昼間の一件はいつも以上に悪質な冗談か！？

ズンズンと足音をたてながら玄関に向かい、鍵を回し切ると同時いきりたつて腕でドアを突いた。相手がどの位置に立っているのか、考えもしないで。直後硬い衝撃、そしてうめき声と衝突音が返ってきた。

茫然としてしばらく立ち尽くしたが、急にはっとなってドアノブを引き、鍵を掛けなおす。

慌てて台所のインターフォンまで走る僕の背中に、冷や汗が流れた。

まずい！ 本当にまずい！

向こうにいるのは母さんだと思い込んでいた。

でも、あれは母さんの声じゃなかった。

いつもはこんな時間に来客なんてないから、アパートの管理サボって悠悠自適に暮らしているあのおばさんしか帰ってこないから、まさかドアの真ん前に立ってるとは思ってもしなかったから！

一二三度咳をし、僕は相手の無事を確かめるため、そろそろと受話器を取った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6450c/>

はれんちマンション（承一）

2010年10月11日00時08分発行